

2020年度／2019年度事業案内

川崎いのちの電話

どんな逆境にあっても 一人でも多くの相談者につながるために

新型コロナウイルス感染のパンデミックス（世界的大流行）化、Stay Home のアナウンスのもと、外出自粛、学校の休校、生鮮食料品を除く大半の民間諸施設の閉鎖など機能不全の社会となり、人間社会構造の原点、単位である家族生活さえまなぬ異常現象が生じています。この終息には相当の時間を要するでしょう。

それだけでなく、今日の超高齢化社会では、平凡な日常生活の中でも、複雑にしてさまざまな問題を抱え、悪戦苦闘している人々がおり、種々の格差、差別という垣根越しにもがき苦しみ、わけでも精神的、肉体的に追い込まれ、悲痛な声を上げている人が多くいます。

今後、医療崩壊、グローバルな経済環境の悪化によって、予測不能な最悪社会が到来することが強く懸念されます。

かつて、中高年層の自殺率ワーストワンを脱却し、住みよい街づくりを目指して、1986年12月1日に開局した「川崎いのちの電話」は、このような孤立、孤独の中で精神的に悩む匿名の心の声を傾聴し、その声、その心にしっかり寄り添い、ともによりよい解決を目指して頑張っただけでまいりました。

これから先、ますます不透明な時代を迎えて混迷する人間社会にあっても、一人でも多くの声とつながり、より安心して住みよい街づくりを目指し、全相談員は研鑽に努めてまいります。

2020年6月

理事長 金子圭賢

2020年度事業(活動)計画

ひとりでも多くの相談者につながる

ひとりでも多くの相談者につながるために、相談の質の向上、研修の充実に取り組む。厳しい経済社会が予想される中、広く市民、企業、団体からの寄付をお願いしていくために、「川崎いのちの電話支援会」の活動をさらに推進する。

24時間365日休むことなく、できるだけ多くの相談電話に応じたい。そのために、全国的に減少傾向にある相談員の増加の取り組みを強化する。

- 研修・養成 ……相談員の養成に丁寧に取り組む。相談員のたゆまぬ研修により、電話相談のさらなる質の向上を目指す
- インターネット相談 ……ネット相談は若い世代からの相談が多く、相談員増と若い世代の理解などの研修を充実する
- 自死遺族ほっとライン ……川崎市の委託事業として、毎月第2・第4木曜日＜午後0時から午後4時まで＞に電話で相談を受ける
- こころの健康セミナー ……川崎市と共催で市民を対象に「こころの健康セミナー」を21年3月開催
- 外部への講師派遣 ……学校や団体などへ講演や研修を行う講師を派遣し、地域に役立ちたい
- チャリティー事業 ……「川崎いのちの電話」の活動を支援する落語会、コンサートを開催する。
あわせて製作部による手作り品を販売する
- 広報誌の発行 ……年に3回広報誌を発行、多くの人に役立つ内容を企画する
- 横浜、東京、東京多摩、埼玉、千葉など近隣の「いのちの電話」との交流を深める

社会福祉法人 川崎いのちの電話

事務局：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号 ☎ 044-722-7121 発行人：金子圭賢 URL：<http://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

2019年度事業(活動)報告

1. この1年の歩み

「ひとりでも多くの声に耳を傾ける」「相談員の増員」「相談員の研修の充実」「財政基盤の安定」を柱にして活動に取り組んだ。理事会と評議員会を5月と翌年3月に実施。このほか、さまざまな部会・委員会活動を行った。相談員数は19年度末時点で、153名(男性34名、女性119名)。

2. 電話相談事業

①相談件数

2019年(1～12月)の実相談電話件数は1万3656件で、18年に比べて164件増加。1日当たり37件。自殺傾向のある割合は8.9%(前年比0.9ポイント減)。

②自死遺族ほっとライン

川崎市からの委託事業で、毎月第2・第4木曜日に計8時間開いている。件数は多くはないものの、「話せる場所」があることが大切だと考えている。

3. インターネット相談

若い世代からの相談が多いインターネット相談。全国で3009件を返信した。返信内容充実と件数増に取り組んだ。

4. 相談員の養成研修・継続研修

①相談員養成研修

34期の相談員への応募は、久しぶりに20名を超えた。最終的には17名が研修を続け、認定を目指している。35期相談員募集に向けて3回の公開講座(無料)を開き、延べ240人が受講した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、面接段階で研修を中止した。

②継続研修

相談員が15グループに分かれて月1回の研修を実施。全相談員が技量の点検・向上のためスーパービジョンを受けた。前年度に続き、相談の質と相談への対応力向上をねらいとして全体研修、中堅相談員対象のスキルアップ研修も実施。

5. 相談員委員会

15の継続グループの相談員委員が毎月1回、委員会を開催。相談活動での悩みや課題を話し合った。

6. 広報誌の発行

広報誌「川崎いのちの電話」を7月、11月、3月と3回発行(延べ13,500部)した。

特集は次のとおり。96号「もしも『死にたい』と言われたら」国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長 松本俊彦さん。97号「若者の将来が危ない～ゲーム障害への治療と対策～」独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 主任心理療法士 三原聡子さん。98号「夢に向かって一歩ずつ」川崎市民文化大使・パラリンピックメダリスト 成田真由美さん。

7. チャリティー事業

コンサートは19年10月5日に山形由美&荘村清志コンサートを実施。落語会は20年3月7日に予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

8. 手作り品の販売

ボランティアで構成する製作部は、本部と新ゆりで手作り品を作りチャリティーや教会などで販売した。

9. 財務委員会

「川崎いのちの電話支援会」が発足して2年目を迎え、引き続き市民、企業、団体からの寄付を働きかけた。2年続けて予算目標を達成した。

10. 社会教育活動

①こころの健康セミナー

市民を対象に川崎市と共催で19年9月28日に開催。「睡眠のメカニズムとアルコールの影響」(田中克俊・北里大学院教授)、「アルコールの心身への影響」(松下幸生・久里浜医療センター副院長)というテーマで行い、177名が参加した。

②講師派遣

恒例となっている秦野市立南中学校福祉講演会(6月17日)に1名を派遣。ライオンズクラブ講演会(6月17日)に1名派遣。川崎市立南生田小学校の傾聴講演会(8月27日)に5名派遣。相模原市精神保健福祉センターのゲートキーパー養成講座(9月19日)に2名派遣。

③ゲートキーパー養成講座

広く一般市民を対象に、川崎いのちの電話がゲートキーパー養成講座を横浜市で開講。外部講師のほか、5名が研修を担当した。139名参加。

④外部への会議参加

川崎市地域自殺対策総合推進計画・地域連携会議、川崎市青少年育成連絡会議、神奈川県犯罪被害者支援者会議。

1. 2019 年の実相談電話件数は 1 万 3656 件、内容別では「人生」が 30%

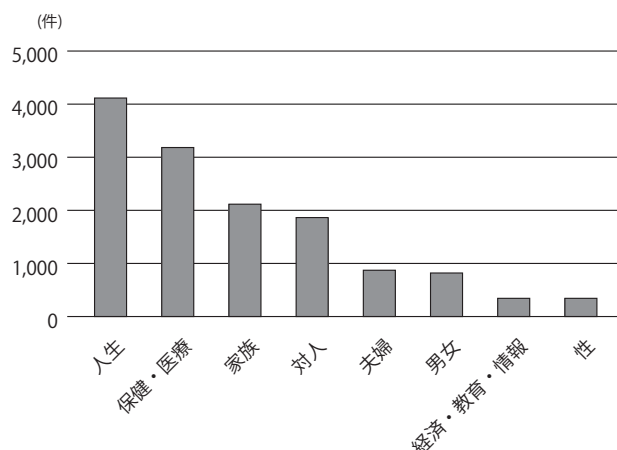
2019年(1～12月)の実相談電話件数は1万3656件で、18年に比べて164件増加。1日当たり37件。自殺傾向のある割合は8.9%(前年比0.9ポイント減)、男性8.5%、女性9.3%。昨年に引き続き10%を下回った。

内容別では、「人生」が4115件(全体の30%)で最も多く、「保健・医療」3183件(23%)、「家族」2116件(15%)、「対人」1864件(14%)、「夫婦」872件(6%)、「男女」820件(6%)、「経済・教育・情報」343件(3%)、「性」343件(3%)の順になっている。

男女別では、男性43%、女性57%。

年代別では、40代と50代がともに25%で、この2つの世代で全体の半数を占め、以下、30代16%、60代15%、20代7%、70代以上3%、10代2%の順。世代不明が7%となっている。

2019 年相談内容別件数



■全国のいのちの電話受信状況 (2016～2019 年)

2019年の全国のいのちの電話(50センター)の受信総数は61万372件で、18年比1万7103件減少。受信件数が最も多かった10年の75万5485件より14万5113件少なくなっている。男女別ではほぼ同じ割合。川崎は1万4866件^(注)で、受信総数の2.4%を占める。

(注: 川崎では実相談数を公表するため、連盟の統計と差がある)

(単位: 件)

区分		16年	17年	18年	19年
全国	男性	341,761	328,972	309,565	305,580
	女性	335,239	323,935	317,910	304,792
	計	677,000	652,907	627,475	610,372
川崎	男性	7,026	6,684	6,640	6,810
	女性	7,129	7,346	8,031	8,056
	計	14,155	14,030	14,671	14,866

2. 2010 年～2019 年 (10 年間) の電話相談推移

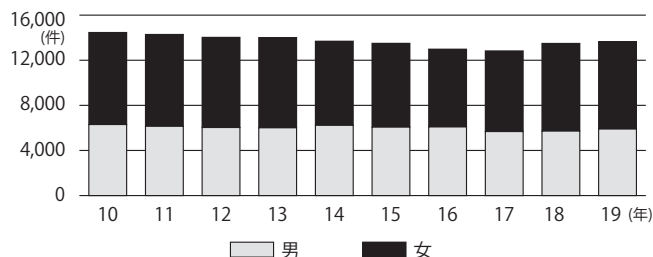
相談を男女別、年代別、内容別に10年間の推移を表とグラフで示した。

1 男女別実相談数

(単位: 件)

区分	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
男性	6,299	6,142	6,036	6,011	6,228	6,067	6,086	5,677	5,716	5,901
女性	8,162	8,144	7,993	7,998	7,458	7,432	6,895	7,150	7,776	7,755
計	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	13,492	13,656

図1 男女別実相談数 (2010～2019 年)

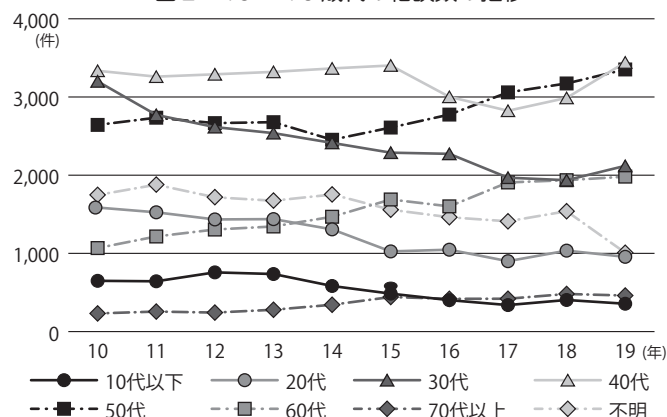


2 年代別実相談数

(単位: 件)

区分	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
10代以下	649	643	757	736	583	485	402	339	404	356
20代	1,586	1,525	1,434	1,438	1,307	1,025	1,047	900	1,035	956
30代	3,200	2,771	2,615	2,538	2,413	2,288	2,273	1,968	1,936	2,119
40代	3,335	3,260	3,290	3,321	3,365	3,403	3,002	2,824	2,988	3,422
50代	2,643	2,735	2,666	2,678	2,453	2,609	2,775	3,059	3,173	3,352
60代	1,068	1,216	1,305	1,344	1,468	1,689	1,601	1,907	1,936	1,982
70代以上	232	256	243	279	343	442	419	420	481	461
不明	1,748	1,880	1,719	1,675	1,754	1,558	1,462	1,410	1,539	1,008
計	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	13,492	13,656

図2 10～70 歳代の相談数の推移

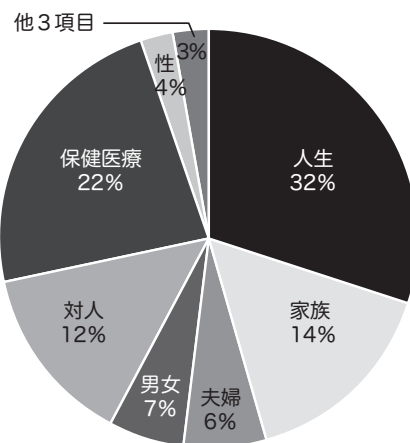


③内容別実相談数

(単位：件)

区分	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	計
人生	5,085	5,075	4,659	4,446	4,393	4,101	4,055	4,178	4,090	4,115	44,197
家族	1,808	1,817	2,018	2,070	2,039	1,938	1,786	1,894	2,193	2,116	19,679
夫婦	910	925	786	863	711	692	747	739	843	872	8,088
男女	772	738	1,025	1,087	1,006	898	1,061	906	793	820	9,106
対人	1,763	1,482	1,555	1,577	1,596	1,802	1,688	1,551	1,827	1,864	16,705
保健医療	2,473	2,502	2,591	3,084	3,230	3,299	2,992	2,932	3,039	3,183	29,325
性	1,210	1,218	905	404	360	428	333	304	337	343	5,842
他3項目	440	529	490	478	351	341	319	323	370	343	3,984
計	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	13,492	13,656	136,926

図3 10年間の内容割合

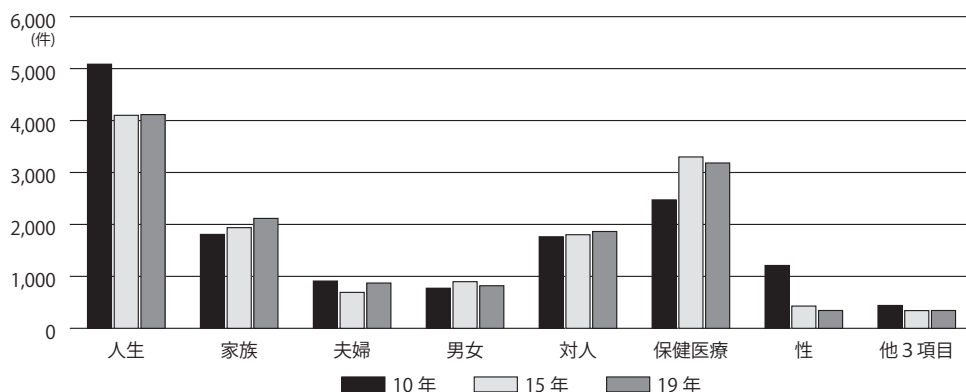


④内容別実相談数の年別比較

(単位：件)

区分	10年	15年	19年
人生	5,085	4,101	4,115
家族	1,808	1,938	2,116
夫婦	910	692	872
男女	772	898	820
対人	1,763	1,802	1,864
保健医療	2,473	3,299	3,183
性	1,210	428	343
他3項目	440	341	343
計	14,461	13,499	13,656

図4 内容別実相談数の年別比較

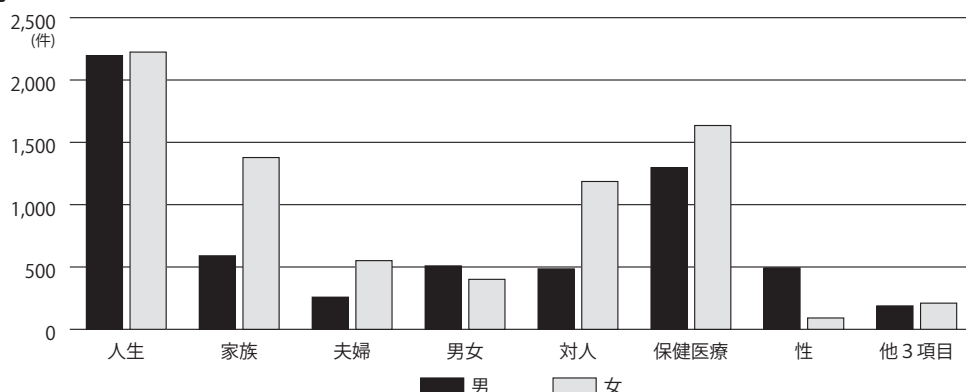


⑤2010～2019年男女別平均

(単位：件)

区分	男	女
人生	2,196	2,224
家族	590	1,378
夫婦	258	551
男女	509	401
対人	485	1,186
保健医療	1,297	1,635
性	493	91
他3項目	188	210

図5 男女の内容別実相談数 (2010～2019年平均)



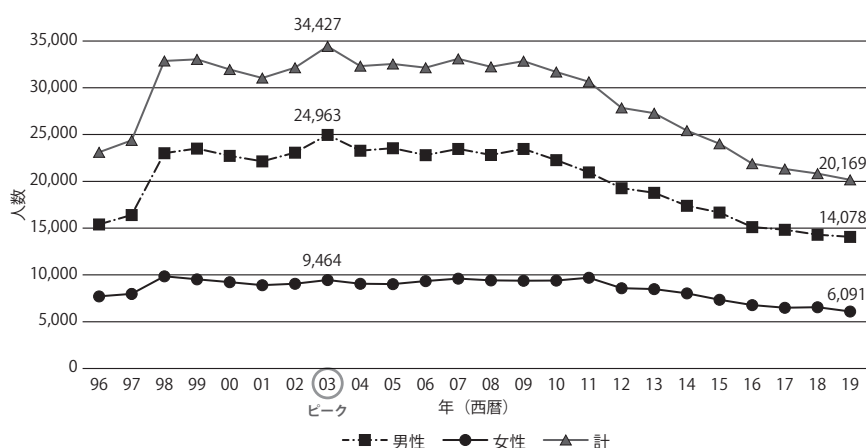
■全国の自殺者の推移 (厚生労働省自殺対策推進室統計、警視庁統計より)

2019年の全国の自殺者は2万169人で、18年比671人減(3.2%)、10年から10年間減少している。ピークだった03年の3万4427人から1万4258人減。男女別では男性1万4078人(69.8%)、女性6091人(30.2%)で、男性は女性の約2.3倍。

年代別では20代以上は全て減少し、10代だけが659人と18年より60人増えている。先進国では、日本の10代の自殺の多さが目立っている。

原因別では、「健康問題」が最も多く、「経済・生活問題」「家庭問題」と続く。

都道府県別では神奈川県は1076人で東京、大阪、埼玉に続いて4番目に多いが、自殺死亡率(10万人あたりの自殺者数)では全国で最も少ない。



2019年度決算

事業活動計算書

単位：円

収益の部	
科 目	金 額
相談事業	8,994,850
育成事業	1,314,500
受託事業	1,334,000
その他事業	6,346,350
川崎市補助金	5,189,600
共同募金配分金	880,000
川崎市社協福祉基金	144,750
かながわコミュニティカレッジ	132,000
経常経費寄付金	7,230,349
経常経費寄付金	3,962,349
一般寄付金	2,322,349
チャリティー寄付金	890,000
製作部寄付金	750,000
会員会費収入	3,268,000
賛助会費寄付	2,916,000
維持委員会会費寄付	352,000
その他収入	42,226
収益合計	16,267,425

費用の部	
科 目	金 額
人件費	5,386,106
事業費	3,648,023
委員会費	546,905
広報費	477,180
研修研究費	204,235
教育指導費	1,448,605
その他	971,098
事務費	2,731,665
事務消耗品	282,250
水道光熱費	516,811
通信運搬費	922,817
その他	1,009,787
減価償却費	1,666,665
国庫補助金等特別積立金取崩額	△334,000
費用計	13,098,459
サービス活動増減差額	3,168,966

貸借対照表

単位：円

資産の部	
科 目	金 額
流動資産	11,536,547
現金預金	11,136,547
小口現金	8,240
普通預金	3,208,454
貯蓄預金	3,984,547
郵便振替口座	3,935,306
立替金	0
仮払金	400,000
固定資産	121,191,415
基本財産	100,000,000
その他固定資産	21,191,415
構築物	6,822,500
器具及び備品	3,447,924
ソフトウェア	2,278,500
減価償却累計額	△6,357,934
その他積立資産	15,000,425
資産の部合計	132,727,962

負債の部	
科 目	金 額
流動負債	0
負債の部合計	0

純資産の部	
科 目	金 額
基本金	100,000,000
基本金	100,000,000
国庫補助金等特別積立金	28,495,999
国庫補助金等特別積立金	28,495,999
その他積立金	0
その他の積立金	0
次期繰越活動増減差額	4,231,963
(うち当期活動増減差額)	3,189,107
純資産の部合計	132,727,962

負債及び純資産の部合計	132,727,962
-------------	-------------

2020年度予算案

事業活動による収支

単位：円

収入の部	
科 目	金 額
相談事業収入	8,807,600
育成事業収入	1,710,000
受託事業収入	1,320,000
その他事業収入	5,777,600
川崎市補助金	5,189,600
共同募金配分金	88,000
神奈川県補助金	500,000
経常経費寄付金収入	7,200,000
経常経費寄付金	4,300,000
一般寄付金	2,100,000
チャリティー寄付金	1,400,000
製作部寄付金	800,000
会員会費収入	2,900,000
賛助会費	2,500,000
維持委員会費	400,000
その他収入	66,000
事業活動収入計	16,074,200

支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	6,450,000
事業費支出	5,891,000
委員会費支出	1,150,000
広報費支出	700000
研修研究費支出	1,345,000
教育指導費支出	1,500,000
その他支出	1,196,000
事務費支出	3,060,200
事業活動支出計	15,401,200
事業活動資金収支差額	673,000

<役員名>

評議員

市川 功一	鎗木 昌代	近藤八千代
今野タネ子	千田 智子	田出 亨
百元 信一	北條 秀衛	松原 成文

理事長

金子 圭賢

理 事

安達 成功	井田 光政	鈴木 清
関 聖一	張 賢徳	有田 茂(事務局長)

監 事

関口 賢次	増山 雅久
-------	-------

顧 問

阿部 孝夫	安藤 義雄
-------	-------

「2020年度／2019年度事業案内」を発行しました。1年間の活動の報告とこれからの1年間の計画、決算・予算の概要、この10年間の電話相談の推移などを紹介しています。詳しい内容は、川崎いのちの電話のホームページ(<http://kawasaki-inochinodenwa.jp>)に掲載します。

寄付感謝

2019年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

《個人》

田中 康夫	浅田 美子	長塚いつ子	山岡 道夫	小川 祐一	松岡 信子	片山世紀雄	亀井 真司	小川 照子
小林 直人	早崎 悦子	畑田サキ子	大石 眞理	西村 典子	山中 光子	北條 秀衛	久保美矢子	鈴木 清
内田 勝敏	澁谷 初美	仲村アサ子	落合 弘子	山本 苑子	加藤トミ子	尾根 恒	碓井 正之	松本 純子
松岡 光子	本田 雅子	藤井美智子	近藤百合江	石橋 博	今野タネ子	鎗木 昌代	近藤八千代	高橋 勉
鷲巢 浩代	斉藤加奈子	森 多美子	河合 徹子	小島 良子	栗井 清	都高 真道	木澤 静雄	庄嶋 弘介
新海 和夫	大谷喜代司	大澤 陽子	古澤 孝彦	藤嶋とみ子	阿部 孝夫	越水 正明	小泉 正博	堀 洋子
西村 俊子	西村 治人	金子 顕	武田 信平	石橋 慶子	中島 泰己	吉田 久弘	手塚 豊子	齊木 貴
村田 章	山下 秀男	目代 健次	小林 晃一	小野 光一	林 茂	山本 剛	太田 文雄	坂本 治子
村上カズコ	安達 成功	門脇美智子	瀬森 尚羊	西田喜久子	広島 晴美	岡安 敬夫	野上 和子	平井 智子
亀ヶ谷 修	梅田 初志	粕山 勝雄	深瀬 正子	倉片 孝行	関口 晴雄	星田 信之	安田 享二	佐々木陽子
山田美和子	大石 幸生	近藤 芳朗	蝦名 義博	中由 光徳	大川 幸男	井田 光政	篠田喜久子	富田美津子
吉田 伸一	長掛 栄一	松尾 信子	河合 眞	関口 賢次	助川 公子	岡本由利子	太幡世記子	藤 大貴
藤 義文	藤 雅文	秦 ひろみ	山田 長満	小林 峯子	持田喜久代	松島 太郎	鈴木 早苗	竹内 光代
奥 秀子	鈴木 恵子	村田 紀子	島崎 祥子	木崎 光子	森 光子	菅沼 雪絵	余湖はれみ	笠原 光子
吉野八重子	井上美千代	中里 君江	山鹿 文子	梶田みどり	常松 恭子	碓井 俊昭	漆原 敦子	森 清
小林 英機	金子 圭賢	白石 弘巳	加藤 紹大	鍵屋 清作	河合 束	藤野 竹子	志田美奈子	中島 美明
石原 敏光	馬場 邦枝	立川 典子	酒井 初代	那須 妙子	三國 祥子	小松 終子	澤 洋子	石原 淳子
穴戸信次郎	肥塚 由美	櫻井 貴裕	岩田 良子	柳 雅之	松久 順子	瀧野 修	西谷田鶴子	栗澤由利子
柴田 武子	金子美代子	原 勝代	匿名希望10名					

《法人・団体》

川崎市医師会	西明寺	ライオンズ国際協会330-B 地区	カトリック百合ヶ丘教会
石原工業(株)	高津区鎮座白髭神社	(株)櫻井興業	(株)櫻井興業営業部
ライオンズクラブ国際協会330-B 4R-1Z 福本昌悦	四葉GC	宗教法人平間寺	久津間製粉(株)
(有)太平商事	(株)美幸軒	(有)湘南安全硝子	(有)モクダイ
山本賢也 設計室	一般財団法人高橋貞子記念会	石崎運輸(株)	横浜工業(株)
(有)ハラプランニング	小倉運輸(有)	鷺沼ビル管理(株)	(有)田喜商事
(株)多摩設計	イワオ塗研(株)	(株)モリエンタープライス	(株)品川ナックス
セレス川崎農協	(株)ティーカラー	(株)三泉	(株)日本ヴェーテックCEO
オール川崎ライオンズクラブ連絡協議会	(有)イーグル商事	ケイ・アイ商事(株)	カトリック鷺沼教会
日本キリスト改革派 東京恩寵教会	(有)丸子荘	日本キリスト教団溝ノ口教会	川崎境町教会
おくせ医院	川崎教会教会学校	宗教法人潮音寺	(株)ホリデン
(株)アドバンスホーム	元住吉教会教会学校	国際ソロプチミスト川崎	(社)生命保険協会神奈川県協会
日本基督教団新丸子教会	学校法人 捜真学院	(社)神奈川県精神保健福祉協会	(株)由貴工務店
チャリティー事業収益金	チャリティーコンサート募金箱	募金箱	共同購入
センター製作部	新ゆり製作部	書道部	

■財政支援にご協力をお願いします

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約1600万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティー事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいています。2018年4月に財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」が発足しました。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

川崎いのちの電話への寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

(1)個人会員	年額	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円
(2)法人・団体会員	年額	10万円	5万円	3万円	1万円	

◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

◇振込先	(1)ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて)	口座番号:00240-2-36798	加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話
	(2)他銀行からの振り込み	銀行名:ゆうちょ銀行	店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座
		口座番号:0036798	加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-722-7121)

■新事業「リサイクル募金」開始

寄付の新たな方法として、読み終わった本やDVD・CD、未使用切手・ハガキなどを「リサイクル募金 きしゃぼん」に引き渡すと、その売却代金が川崎いのちの電話に寄付される「リサイクル募金」事業を2020年2月25日から開始しました。3月末までに6件、22,519円の寄付がありました。ホームページまたはフリーダイヤルで申し込むと、宅配業者が宅配料無料で集荷し、査定金額が川崎いのちの電話に寄付されます。寄付控除の対象となります。詳細はホームページをご参照ください。

リサイクル募金 きしゃぼん ホームページ kishapon.com/kawasaki-inochinodenwa
フリーダイヤル 0120-29-7000(9:00~18:00)